



■ 老朽狭隘化について

本学の施設を、経年25年以上の建物比率でみた場合、大学全体では53%であるが、黒髪キャンパスにおいては61%と高い数値となっている。このうち、南地区は平成6年度から始まった再開発整備やPFI事業により老朽化解消が進んでいる。しかしながら、北地区は経年25年以上の建物比率が88%となっており、大教センターの改修（平成12、13年）以降の整備は進んでいない。

今後、北地区については、文法学部本館・教育学部本館等の教育研究施設や学生支援施設の整備を行い、南地区については、PFI事業に伴い空きスペースとなる旧工学部3号館及び工学部8号館等の整備を行う。

■ 耐震化について

阪神・淡路大震災をはじめとする最近の地震では、現行の耐震設計基準により設計された建物が大きな被害を受けた例は非常に少なく、大被害が生じた建物の殆どは、現行の耐震設計基準が施行された昭和56年以前の建物であった。

黒髪キャンパスについては、現行の耐震設計基準以前に建てられた建物が61%もあるため、耐震診断の未実施の建物については、早急に耐震診断を行い、耐震性能が低い建物については老朽改修と併せて耐震改修を行い、安全・安心な教育研究環境を保っていく。

■ 保存建物について

本学には、国の重要文化財に指定された五高記念館をはじめ、本学の歴史を語る上で重要な建造物が数多く残っている。しかしながらその中には老朽化した建物やスペースを有効に利用されていない建物も見受けられる。今後は、歴史的な建造物の利用計画を策定し、計画的に建物改修を行い大学のイメージアップを図るシンボルとして活用する。

■ ゾーニング

基本的には現在のゾーニングを踏襲するが、構内での歩行者等の安全を考慮し、北、南地区の構内入口に近いところに駐車場ゾーンを設定する。

■ 環境整備について

本キャンパスにおいても北、南地区共通の課題が駐車場問題である。入構車両が多く歩車道や植樹帯その他空きスペースに駐車している車両も見られる。また、自転車も建物近くに駐輪させるため、建物のアプローチがふさがれる状況もある。構内の安全性や緊急車両の入構経路を確保するためにも、駐車・駐輪スペースの整備が必要である。

また、南地区については、学生が集える広場や施設が少ないため、プラザや広場等を設置し潤いのあるキャンパスを整備する。

■ ユニバーサルデザイン(UD)

本学は従来から身障者に対する障害を取り除くためのバリアフリーデザインは取り入れてきたが、数年前より年齢、性別、国籍や障害の有無等に関係なく誰もが利用しやすいことを念頭に入れたユニバーサルデザインが提唱された。本学の施設整備や環境整備においても、積極的にユニバーサルデザインを取り入れ、安全性、利便性の向上を図り、人にやさしいキャンパス創りを目指す。

■ エコ・キャンパス

環境に優しいキャンパスを目指すために、省資源・省エネルギー・リサイクル等環境への負荷軽減を考慮して、再生材料、エコケーブル、高効率型機器の採用や、既存緑地の保全等を行う。

■ 施設の維持管理

施設の長寿命化や安全性・信頼性等を確保するには、教育研究活動の支障となっている施設の不具合を解消するとともに、潜在するリスクに対する予防的な施設の点検・保守・修繕等を効果的に実施する必要がある。

既存施設は、老朽化に伴い、相当額の要修繕箇所が蓄積している。そのため、これらの要修繕箇所の増加防止を行うとともに、安全性や緊急性などから修繕箇所の優先順位をつけ、計画的に整備を図り解消することが重要であり、良好な施設を維持管理するためには適切な整備費の確保が不可欠である。



○教育学部本館改修

本施設は昭和41年から42年に建設され、その後一部増築された建物で、経年による老朽化が著しい。早急な老朽解消と耐震性能の確保を行うとともに、将来の大学院設置計画を考慮した整備が必要である。



現状外観



劣化状況

○文学部本館改修

本施設は昭和41年に建設され、その後数回増改築された建物で、経年による老朽化が著しい。

早急な老朽解消と耐震性能の確保を行うとともに、教員、学生のコミュニケーションスペース及びリフレッシュスペースの整備が必要である。



現状外観



劣化状況

○総合情報ネットワーク館

図書館は昭和48年竣工以来、増設整備することなく現在に至っているが、平成16年に放送大学との合築で一部施設整備が認められ工事が進捗中である。

今後は総合情報基盤センターや生涯学習センターをはじめ地域連携の一環である「熊本大学LINK構想」の推進を図るため、従来の図書館にないマルチメディア工房、スタジオ、メディアホール等を備えたハイブリッド型図書館として整備を行う。

○駐車場・駐輪場

本キャンパスは構内に駐車場が点在しており、人と車の動線が交わっている箇所もあり事故等も懸念される。今後は歩行者の安全と講義中の騒音防止を考慮し、出入口付近に駐車場を確保し、構内への車の乗り入れを制限することも必要と思われる。また、既存の駐車場を駐輪場等として活用することにより、アメニティの向上も図られる。



未整備の仮設駐車場



路上にあふれる自転車



駐車場台数不足による路上駐車

○養護学校屋内運動場

現有施設は全国的に最小規模という狭隘な屋内運動場であり、体育の授業でも支障をきたしている。

児童ならびに生徒の障害の多様化や重度化による養護学校の義務化及び学習指導要領の改正により、障害の改善及び克服を目的とした学習内容が導入されたため、施設整備が急務である。



狭隘状況



劣化状況



劣化状況

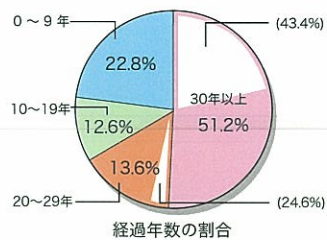


■ 経年別建物配置図



経過年数	建築年	うち改修歴のある建物
30年以上	昭50年以前	
20~29年	昭51~60年	
10~19年	昭61~平7年	
0~9年	平8年以降	

※ は重要文化財を示す

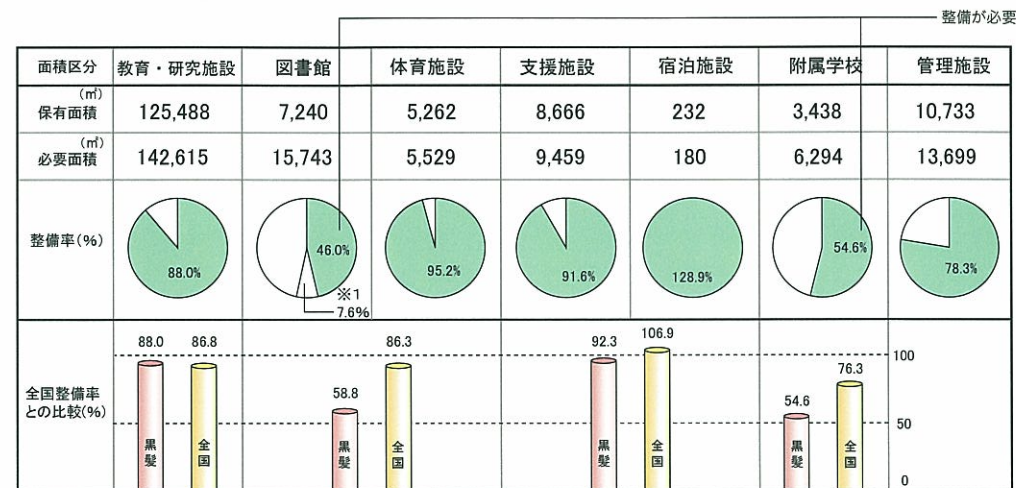


※ () 内は改修歴有の割合を示す

■ 面積区分毎の整備率(17年5月現在)

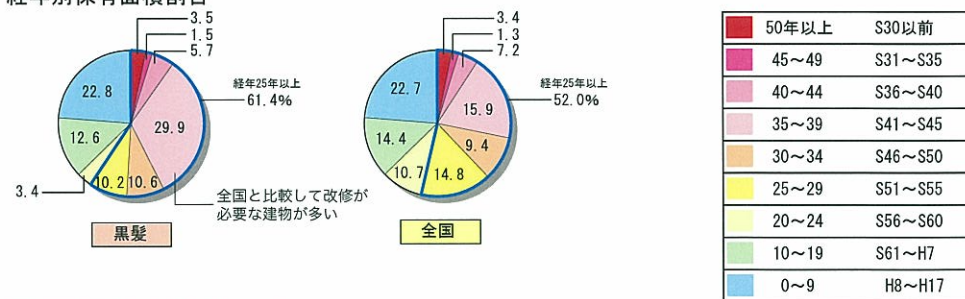
黒髪キャンパスは、改修目安となる経年25年以上の建物割合が国立大学法人等と比較して多い。今後も老朽化が著しい建物の改修や改築が必要となる。

グラフからわかる様に特に図書館及び附属学校の整備率が低く、懸案でもある総合情報ネットワーク館及び附属養護学校体育館の整備が望まれる。



※1 増築中の図書館を示す

■ 経年別保有面積割合



■ 経年別改修済面積割合比較





■保存建造物

黒髪キャンパスに残す保存建造物は重要文化財、登録有形文化財、その他近代建築物の歴史的・文化的意義や価値が認められるものとする。

特に五高記念館についてはユニバーシティ・ミュージアムとして改修を行い、広く一般にも公開し活用を図り、大学のイメージアップのツールとしても利用する。

<北地区保存建造物>

- ・五高記念館 国指定 重要文化財
- ・化学実験場 国指定 重要文化財
- ・赤門 国指定 重要文化財

<南地区保存建造物>

- ・工学部研究資料館 . . . 国指定 重要文化財
- ・事務局本館 登録有形文化財
- ・旧図書館工学部分館 . . 旧熊本高等工業学校図書分室

■記念碑・オブジェ等

構内に点在する記念碑やオブジェを効果的に活かした計画とする。

■緑地

緑地については施設内に点在する楠の大木、楠並木、桜並木、銀杏並木等の歴史的樹木を保存し、保存建物と一体とした歴史的流れを感じさせるキャンパス空間の整備を行う。

■歴史的な建造物



五高記念館



工学部研究資料館



化学実験場



赤門



事務局本館



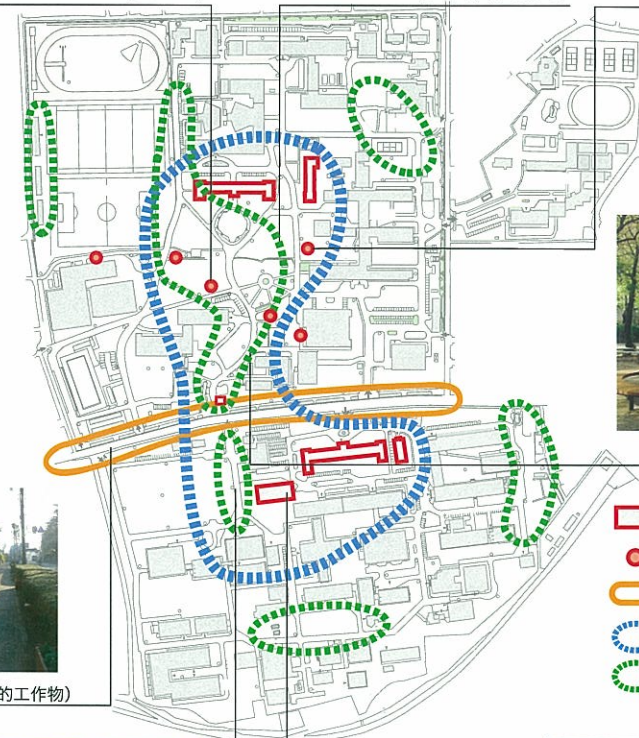
ハーンレリーフ(オブジェ)



楠の大木(保存緑地)



漱石レリーフ(オブジェ)



県道沿いの石壁 (歴史的工物物)



杉並木(保存緑地)



銀杏並木(保存緑地)



工学部研究資料館内部(保存建造物)



ゾーニングについては、既設の配置を見据えながら歴史や文化、機能性を考慮した計画とする。

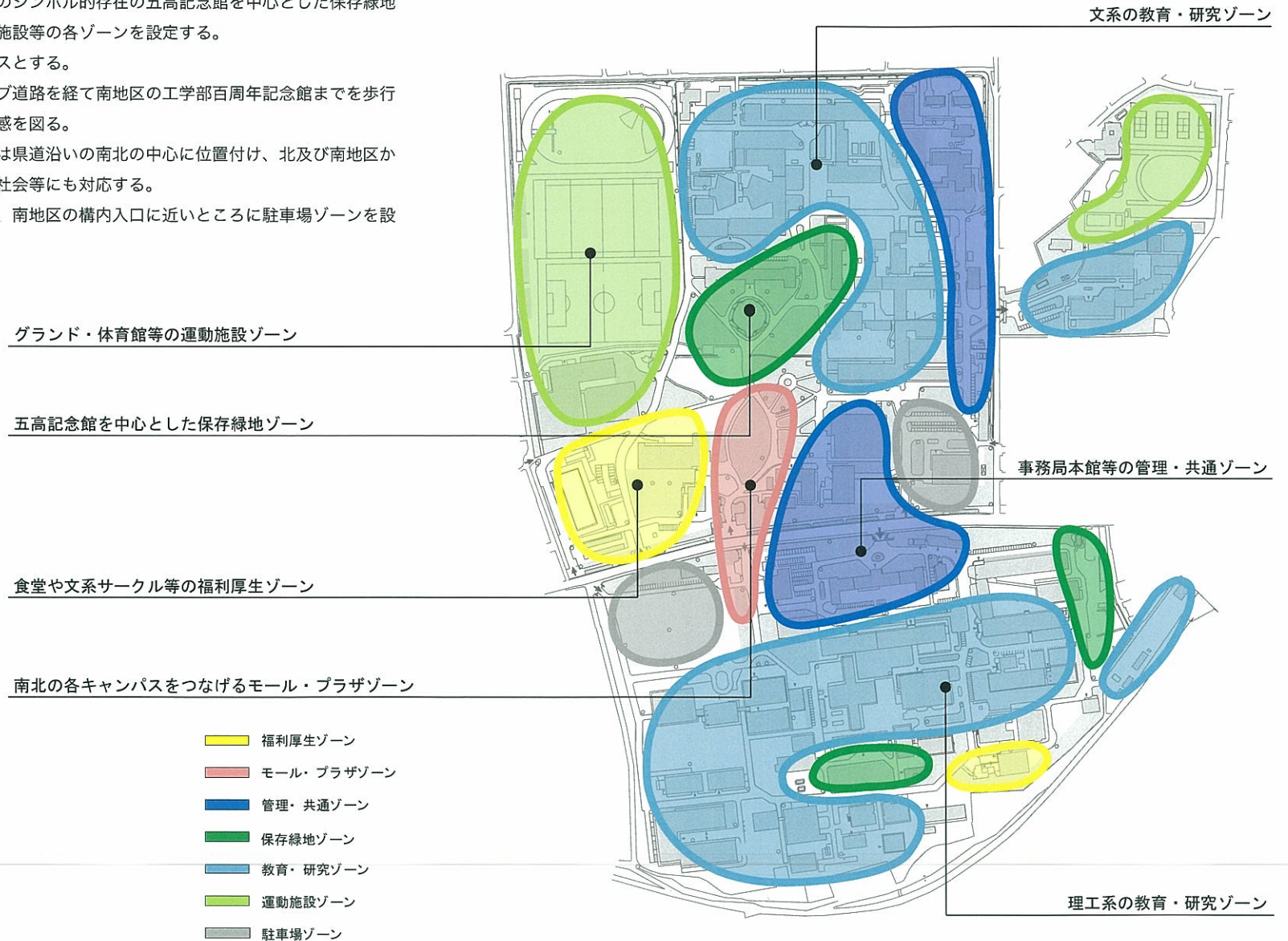
北地区は文系学部の主キャンパスとし、本学のシンボリック存在の五高記念館を中心とした保存緑地ゾーンのまわりに教育・研究、福利厚生、運動施設等の各ゾーンを設定する。

南地区は理工系学部及び事務局の主キャンパスとする。

また、五高記念館から赤門までのサインカーブ道路を経て南地区の工学部百周年記念館までを歩行者優先のモール・プラザゾーンとし南北の一体感を図る。

事務局や附属図書館などの管理・共通ゾーンは県道沿いの南北の中心に位置付け、北及び南地区からの利用と外部への施設の地域開放や生涯学習社会等にも対応する。

また、構内での歩行者等の安全を考慮し、北、南地区の構内入口に近いところに駐車場ゾーンを設定し学内への乗り入れを制限する。





■デザインの考え方

黒髪キャンパスは、文化の薫りが高く、立田の森と白川を背景とし大樹の多い自然環境に恵まれたキャンパスであり、特に北地区は、五高記念館を中心に歴史と伝統を感じる雰囲気醸し出している。一方、南地区は、施設の再開発整備を実施し現代的な建物が数多く存在する。

計画にあたっては、自然環境や歴史と伝統を守りつつ周辺環境とのバランスが取れた計画が求められる。

デザインモチーフとなる歴史的建造物



■北地区について

北地区の文系教育・研究ゾーンにおいては、文系の融合・交流をイメージさせる計画とする。そのため、施設をヒューマンスケールに分割しながらも、それぞれに上下等の明瞭な方向性をつけず、大地に根ざしたバランスの取れた広がり、歴史的建造物との調和を重視させる。

色彩については、歴史的建造物によるレンガ色を基本としながらも、周辺の豊かな緑地に施設が映えるよう、理系教育・研究ゾーンよりも温かみを重視した色彩とする。

造形については、五高記念館に象徴される伝統的な形態の建物との調和のとれたデザインとする。



化学実験場



赤門

三層構成による高層棟と自由な表現の低層棟



■南地区について

南地区の理系教育・研究ゾーンにおいては、文明の力強い推進力と自然環境との調和を表現している。そのため、外観は過去・現在・未来の時間軸に対応した明快な三層構成とし、基壇部から上部に向けてファサードの表情を順次軽快にすることにより建物の圧迫感を和らげるとともに、空（理想）に向かって力強く伸びていくイメージを表現させる。

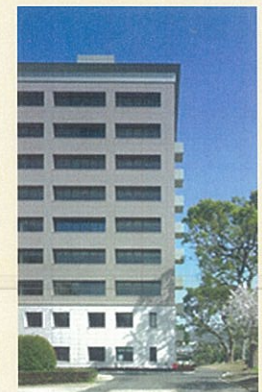
造形については、高層棟は合理的な形状に加え、陰影と色彩により柔らかな表情とし、中・低層棟は各棟の機能を生かした自由で豊かな表現とする。



工学部百周年記念館



工学部研究棟 I

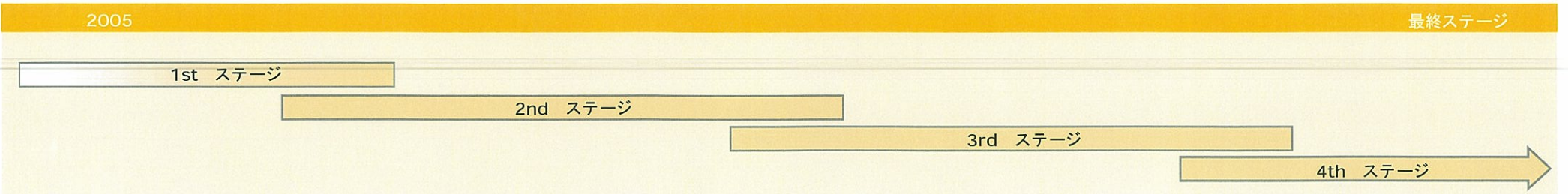
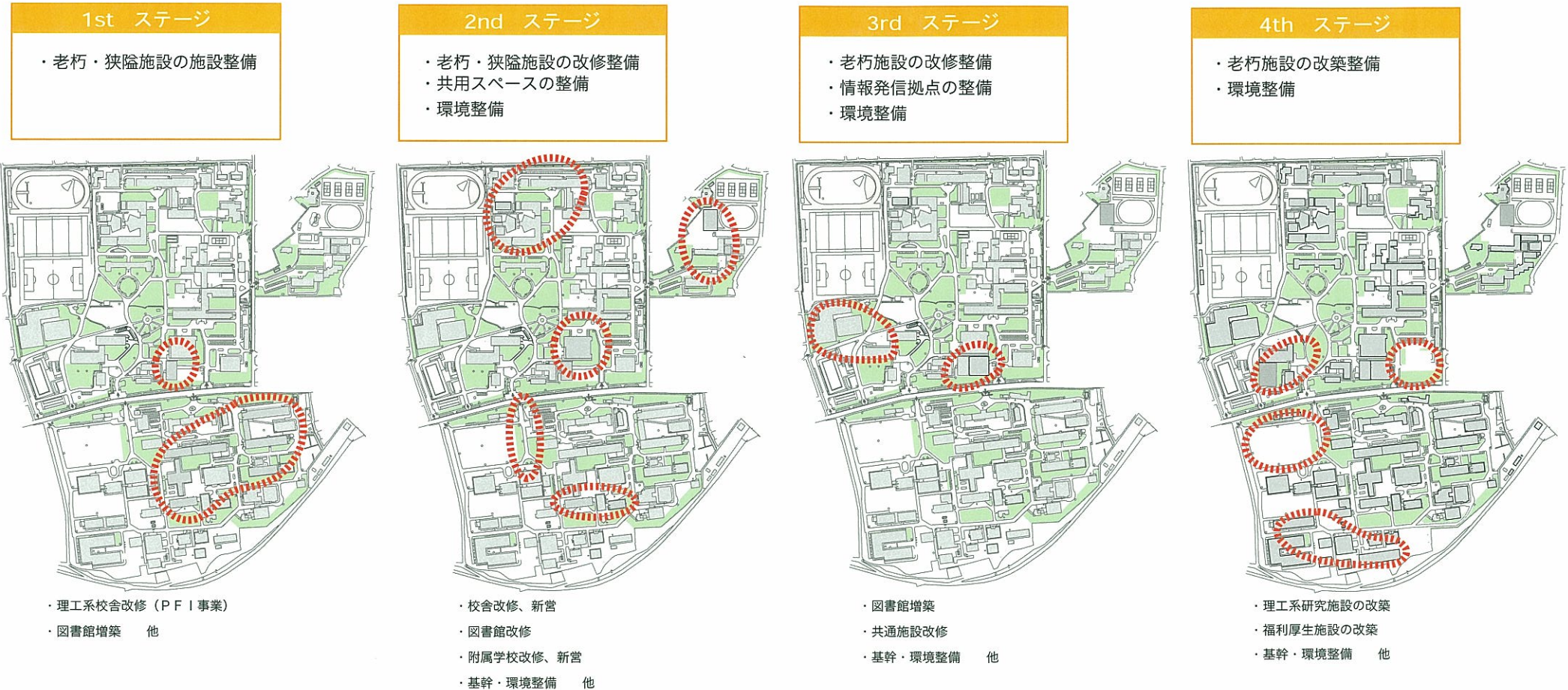


自然科学研究科・理学部研究棟



北地区は経年25年以上の建物が約9割を占めている。そのうち大教センターは平成12・13年に改修（耐震改修を含む）が済んでいるが、依然約7割が未改修の建物である。今後は老朽化した施設の改修を進めるとともに、不足する部分については、総合研究棟などの設置を計画する。

南地区は、再開発計画に基づき集約化・高層化・複合化を図ってきた。今後は既設の老朽化した施設の改修を主体とした整備計画に移行、老朽・狭隘解消、施設の有効利用や共用スペースの確保を進めていく。

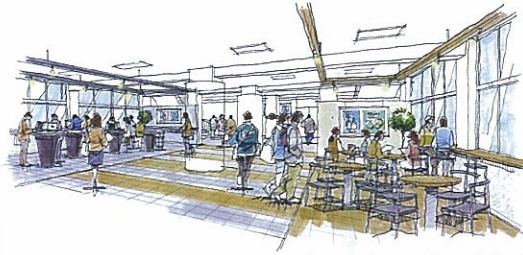




■コミュニケーションスペース

緑豊かなキャンパスの中に学生や教職員が自然と集い、コミュニケーションと情報発信の場として利用できる空間を形成する。

校舎の中庭は学生、教職員が会話したり、くつろいだりする空間だけでなく、イベントプラザとしても利用可能なしつらえとし、柔軟性に富む空間とする。



リフレッシュスペースイメージ



緑地を生かした環境整備



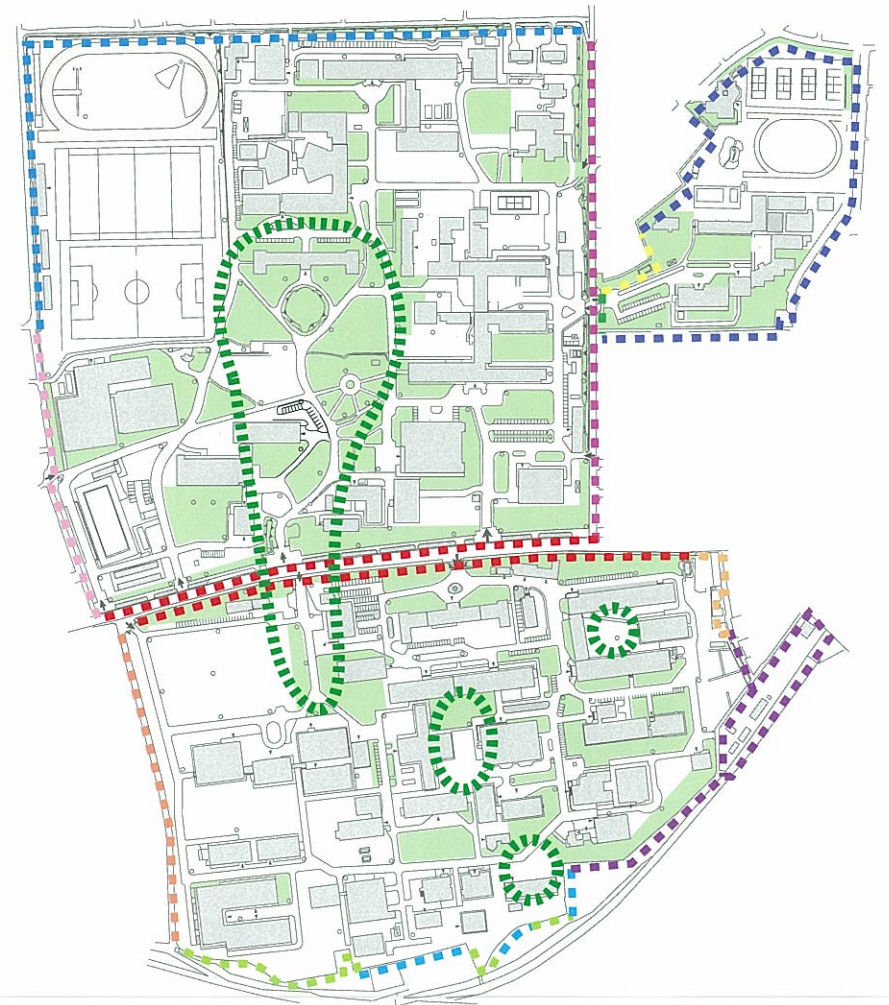
プラザイメージ

■囲障計画

黒髪キャンパスの敷地を取り囲む囲障は老朽化も進み、また、多様な形状が見られ統一性が図られていない。今後は周辺環境との調和や防犯機能を高める計画的な改修を実施し、地域に開かれたキャンパスを目指す。



既存の囲障の状況



広場・モール



■サイン計画

あらゆる人が見やすいことを前提とするユニバーサルデザインの観点からサイン計画を行う。利用者の行動と情報の内容、サインの種類を整理分類して表示内容のあるべき形を検討し、利用者に対して、いかに簡潔にわかりやすく伝えるかということがサインの基本である。キャンパス全体の利用動線を体系的に整理し、効果的なサイン計画とする。

<キャンパス内の設置サインの現状>

現状のキャンパス内には、仕様や形状の異なるサインが点在している。



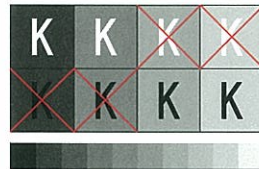
デザインに統一性のないサイン

<サインの統一性>

本学では大学構成員の連帯意識を高め、社会や地域にメッセージをわかりやすく伝えていくため、ロゴマークやロゴタイプの制定を中心とした公式ビジュアルデザインを策定中である。今後は上記ビジュアルデザインを取り入れ、表示内容やデザインの統一化をはかり、屋外サイン・屋内配置図や屋外マップなどまとまりのあるサイン計画とする。

<サインの視認性>

サインの色彩を設定する上で、図色と地色の明度差を確保することが必要となる。本キャンパスは緑が豊富にあるため、その中で必要情報を容易に理解できる視認性が重要となる。また、本学は外国人の学生、研究者も多くいるため複数の外国語表記とともに、ピクトグラム（絵文字）を採用する。ピクトグラムはできるだけ国際的にコード化され、明瞭なデザインのものを使用する。



図色と地色の明度差の関係



ピクトグラムのイメージ

■ユニバーサルデザイン

障害の部位や程度によりもたらされるバリア（障壁）に対処するのがバリアフリーデザインであるのに対し、ユニバーサルデザインは年齢、性別、国籍や障害の有無等に関係なく誰もが利用しやすいようにあらかじめ都市や生活環境を計画する考え方である。

「ハートビル法」「福祉のまちづくり条例」等の基準は満足しつつ、この「ユニバーサルデザイン」を基本方針として計画することが必要である。

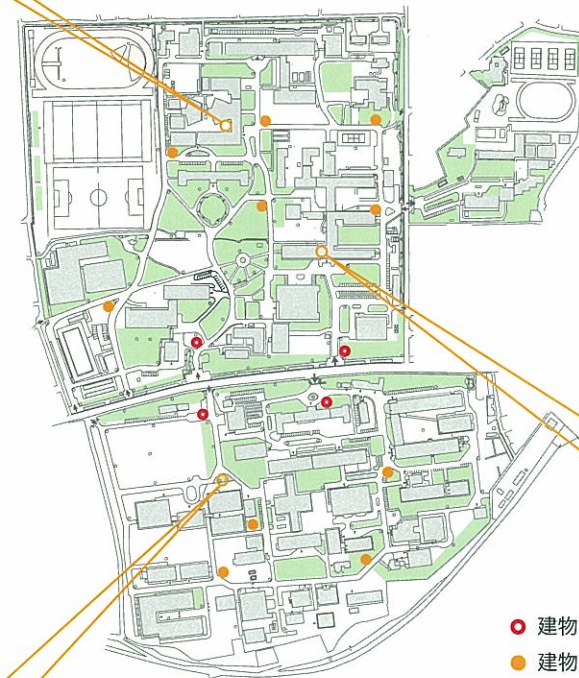
ユニバーサルデザインの7原則	
1.	誰にでも公平に利用できる
2.	使う上で柔軟性に富む
3.	簡単に直感的に利用できる
4.	必要な情報が簡単に理解できる
5.	単純なミスが危険につながらない
6.	身体的な負担が少ない
7.	近接して使える寸法や空間になっている

<具体的な方策の例>

- ・レベル差のある入り口には全てスロープを設け、車椅子利用者がスムーズに移動できる計画とする。
- ・主出入口は容易に閉閉できるドアとし、段差がなく滑りにくく安全性の高い床材を使用する。
- ・サイン計画と連動した色彩計画とする。



段差解消のためスロープを設けた出入口口



色分けされた分かりやすい案内板

- 建物総合案内板(案)
- 建物の誘導サイン(案)



段差のない建物へのアプローチ



多目的に使用できるトイレ



注意喚起用の点字ブロック



■ 構内主要動線

構内駐車場は、歩行者の安全性への配慮と騒音防止のため、北、南地区の構内入口付近に整備し、車両の入構については、制限を行い一般車両の乗り入れは駐車場までとする。構内幹線道路はループ道路を設け、ここから建物群へサービスのためアプローチする。

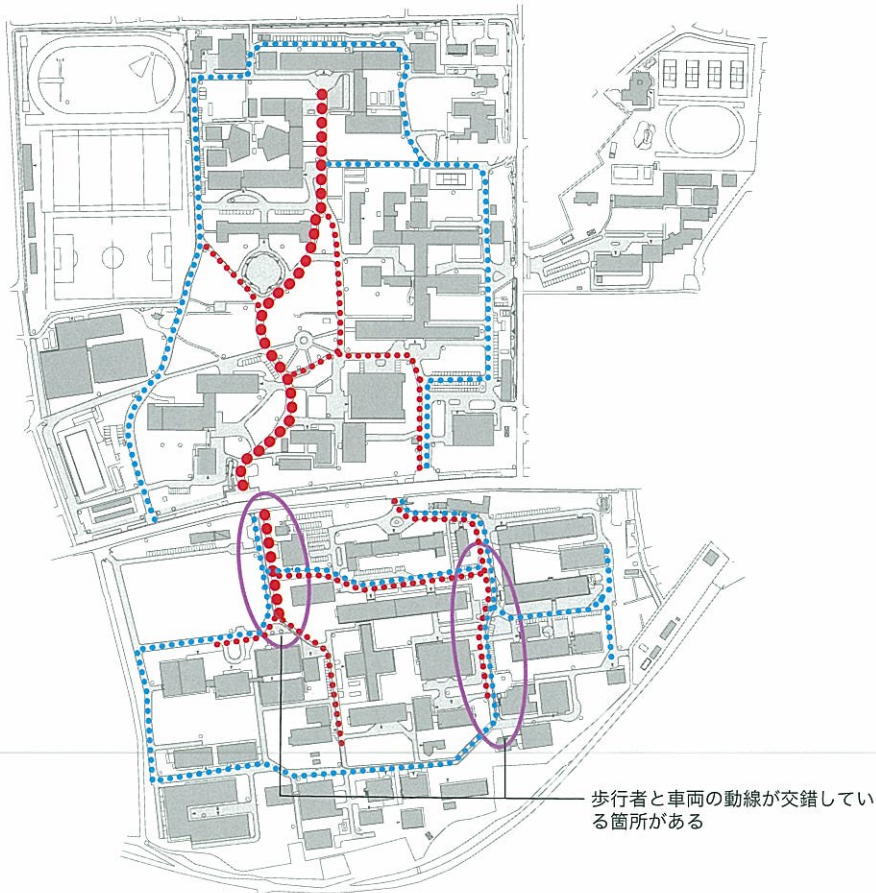
既存の駐車場は駐輪場に整備し、歩道に溢れている自転車を収容することによりアメニティの向上を図る。

また、五高記念館から赤門までのサインカーブ道路を経て南地区の工学部百周年記念館までを、歩行者優先のモール・プラザとし、南北を連結させて一キャンパスとしての一体感を図り、構内を語らいつつ、思索しつつ、安心して歩くことができる、学問の府にふさわしい環境を創造していく。

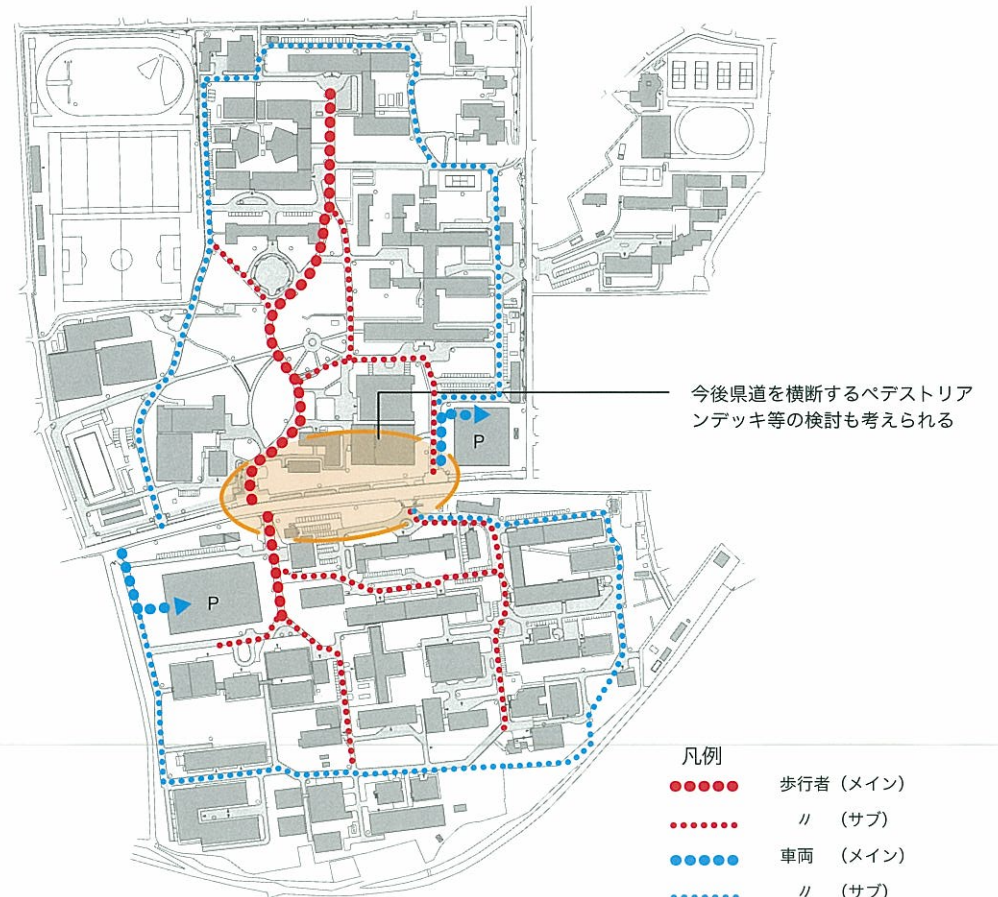


保存緑地を活かしたプロムナード (イメージ)

現状



計画予定





■設備計画総論

現在、黒髪キャンパスは経年25年以上の建物が61%あり、建物のみならず電気・水道・ガス等の設備機器も老朽化が著しい。今後は教育・研究の円滑な遂行を支えるための基盤として、安全性や効率性、地球環境に配慮した設備計画を行っていく。

1. 周辺環境、地球環境に配慮した設備計画

地球温暖化防止のためCO2等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。

2. 設備機能の信頼性の向上を配慮した設備計画

設備機能の支障は教育研究に重大な影響を及ぼすため、設備機能の低下あるいは停止等が発生しない信頼性、安全性の高いシステムを構築する。

3. 保守管理業務の省力化を配慮した設備計画

増大する空調用需要電力に対し、ランニングコストの低減を図る空調システムの導入を計画する。

4. 省エネルギー計画

高効率型機器の採用、熱負荷の低減、エネルギーの有効利用、搬送動力の低減、自然エネルギーの利用等を考慮した計画とする。

1. エネルギー供給計画

現 状	計 画
<p>1) 電気設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電力供給方式 ①引込み : 高圧架空引込み ②回線数 : 6.6kV、2引込みで2系統の電力(北地区) 常用22kV、予備6.6kV引込みで2系統の電力(南地区) ③変電設備容量: 4,655kVA(北地区)、13,175kVA(南地区) 変電所箇所数: 屋外キュービクル3箇所(北地区)、無し(南地区) 屋内変電所12箇所(北地区)、20箇所(南地区) ④デマンド電力: 1,466kW(北地区)、2,792kW(南地区) ⑤契約種別 : 特定規模電気事業者と契約(1,466kW)、産業用電力B(2,800kW) ⑥構内配線布設: 共同溝方式 ⑦停電対策 : 非常用発電機(315kVA×1、125kVA×1) ⑧省エネルギー: 高効率型変圧器及び照明器具の採用 	<ul style="list-style-type: none"> ・電力供給方式 ①引込み : 埋設管路式で引込む ②回線数 : 現状と同じ(北・南地区) ③受変電設備 : トランスの統廃合及び高効率型の採用を計画する 屋外キュービクルは撤去し、低圧送電を計画する 北地区の屋外設備の受電設備を撤去し、図書館に受電設備を設ける これに伴う高圧配線及び引込も変更する ④デマンド電力: 予測値(北地区1,600kW、南地区3,700kW) ⑤契約種別 : 現状と同じ ⑥構内配線布設: 新設共同溝に布設 ⑦停電対策 : 現状と同じ ⑧省エネルギー: 高効率型変圧器及び照明器具の採用

(計画数量については予測値を示す)



現 状	計 画
<p>2) 機械設備</p> <p>1.空調設備</p> <p>①空調方式 : 学部会議室、講義室、教室及び学部事務室等にセパレート形又はパッケージ形の個別空調機を設置</p> <p>2.熱源設備</p> <p>①ボイラ : 高温水ボイラ (4 t,6 t) 2基による中央方式暖房 (昭和43~45年度設置) 高温水直暖房 (行120°C、返り100°C)</p> <p>②冷温水発生機 : 附属図書館に直焚冷温水発生機を設置 125USRT 1基 (平成5年度)</p> <p>3.都市ガス設備</p> <p>①使用先 : 主に福利施設・実験研究及び空調用の熱源として使用 北地区 205 m³/日、南地区 208 m³/日</p> <p>4.給水設備</p> <p>①水源 : 北地区は構内井戸2箇所で汲上量 150 m³/日 (使用先は一般給水) 南地区は構内井戸2箇所で汲上量 270 m³/日 (使用先は一般給水) (南地区の2箇所の内、1箇所は休止中)</p> <p>②市水 : 使用先は井水の補給用 (殆ど使わない)</p> <p>③給水方式 : 受水槽と高置水槽の組合せ重力方式 (受水槽は地下式)</p> <p>5.排水設備</p> <p>①一般排水 : } ②汚水排水 : } 直接公共下水道へ放流 ③雨水排水 : } ④実験排水 : } 棟毎の貯留槽へ貯留し水質を定期的にチェック後公共下水道へ放流</p> <p>6.共同溝 : 幅1.3m×高2.0m(昭和43年度整備) 電力ケーブル・通信ケーブル・光ケーブル・給水管・高温水暖房管を収容</p>	<p>1.空調設備</p> <p>①空調方式 : 使用時間帯が一定していない研究室等は省エネルギー運転と個別運転可能なビルマルチ方式で計画する。また、使用時間が一定している講義室(棟)の建物にはガス式、氷蓄熱方式空調機による個別空調方式、一部中央方式で計画する</p> <p>2.熱源設備</p> <p>①ボイラ : 中央方式によるボイラ暖房は廃止する</p> <p>②冷温水発生機 : 附属図書館、講義棟には直焚冷温水発生機、ガス式・氷蓄熱方式空調機を計画する</p> <p>3.都市ガス設備</p> <p>①配管 : 構内引込管の老朽化に伴い配管の更新を行う</p> <p>4.給水設備</p> <p>①水源 : 清水槽は地上式に更新し、濾過装置及び圧力タンク等の機器類は将来増を見込み容量をアップして更新する</p> <p>②市水 : 配管替を計画する</p> <p>③給水方式 : 方式は現状と同じとするが受水槽を地上式へ計画する</p> <p>5.排水設備</p> <p>①一般排水 : } ②汚水排水 : } 方式は現状と同じとするが配管等は更新する ③雨水排水 : } ④実験排水 : }</p> <p>6.共同溝 : 新設共同溝(幅2.0m×高2.0m)を計画する</p>

(計画数量については予測値を示す)

2. 情報通信計画

<p>1.電話設備 : 電話交換設備は平成6年度にデジタル電子交換機 (容量1500/2000) にへ更新</p> <p>2.情報設備 : 平成5年度に全学学内LAN (ループ式FDDI) 構築 : 平成8年度にATM交換機を導入整備し学術研究用・事務用として活用 : 平成13年度全学学内LAN (ギガビットネットワーク) 構築</p>	<p>1.電話設備 : 音声、データ、画像統合インフラに対応できる電話交換設備へ更新</p> <p>2.情報設備 : 新営・増築・改修に伴い情報通信網 (光ケーブル) の充実を図る</p>
---	--



■ 現況図

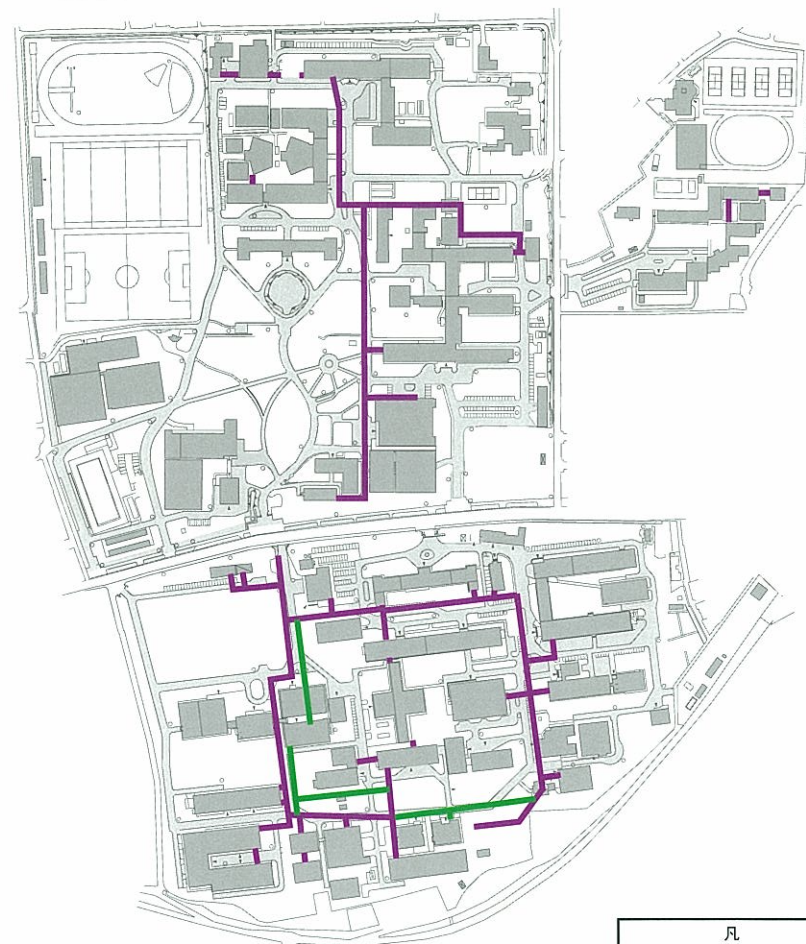


共同溝

幅1.3m×高2.0m(昭和43年度整備) 一部幅2.0m×高2.0m更新済
電力ケーブル・通信ケーブル・光ケーブル・給水管・高温水暖房管を収容

■ 計画図

共同溝

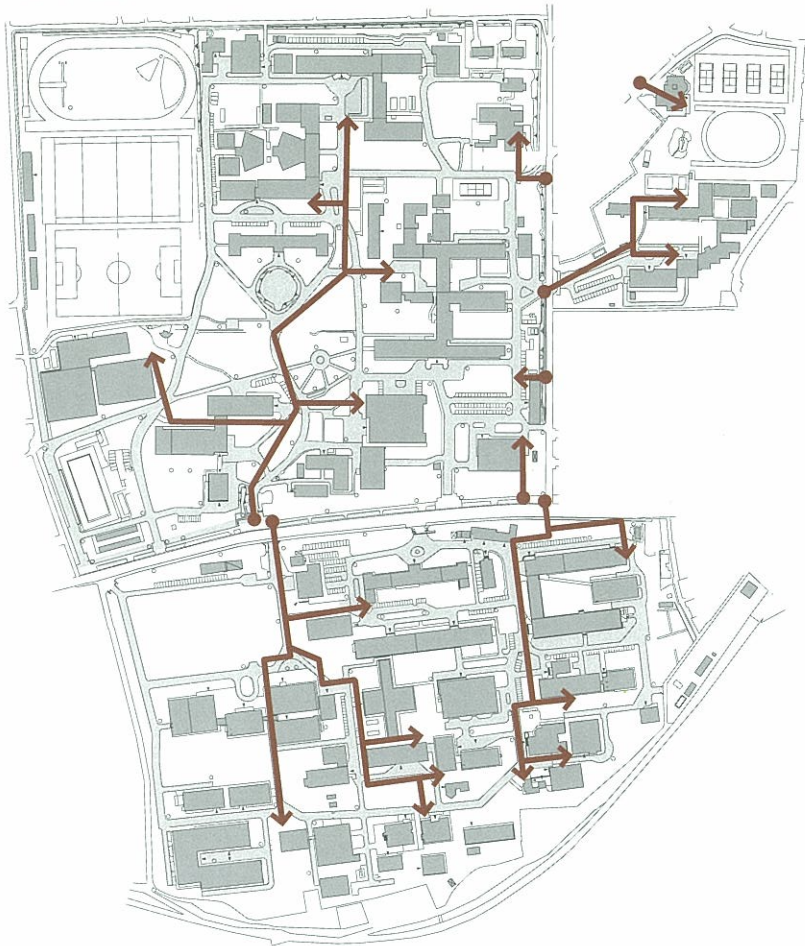


凡	例
	共同溝
	" (更新済)

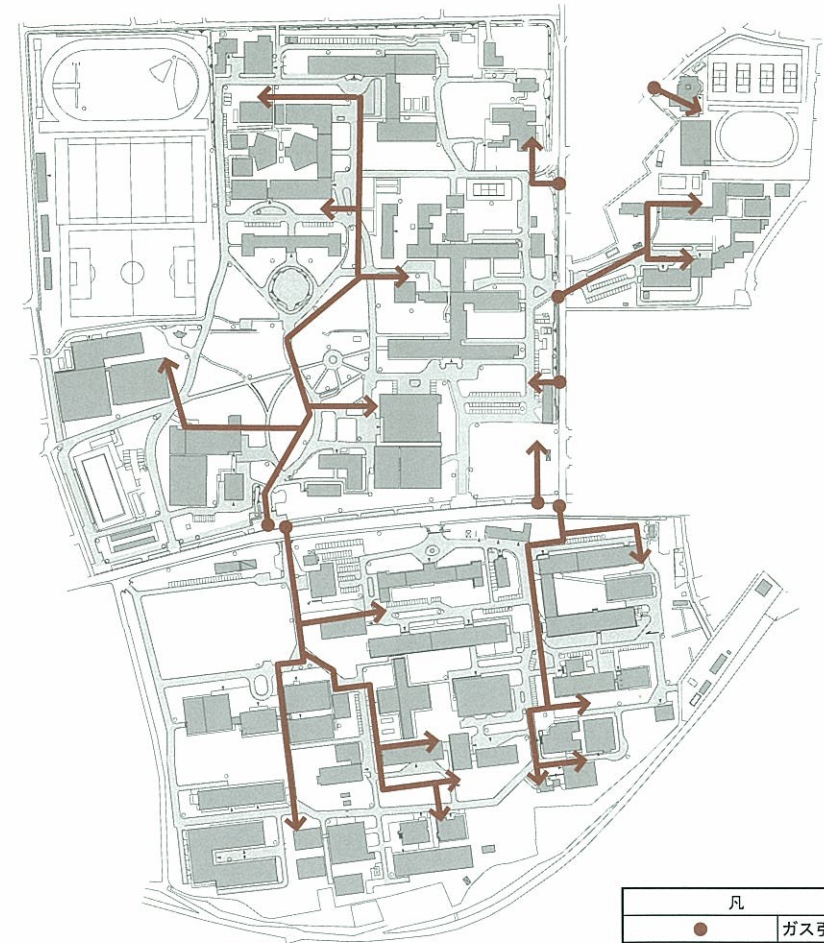
更新済の箇所を除き、新設共同溝(幅2.0m×高2.0m)を計画する



■ 現況図



■ 計画図



ガス設備

凡	例
●	ガス引込
→	屋外ガス管

都市ガス設備

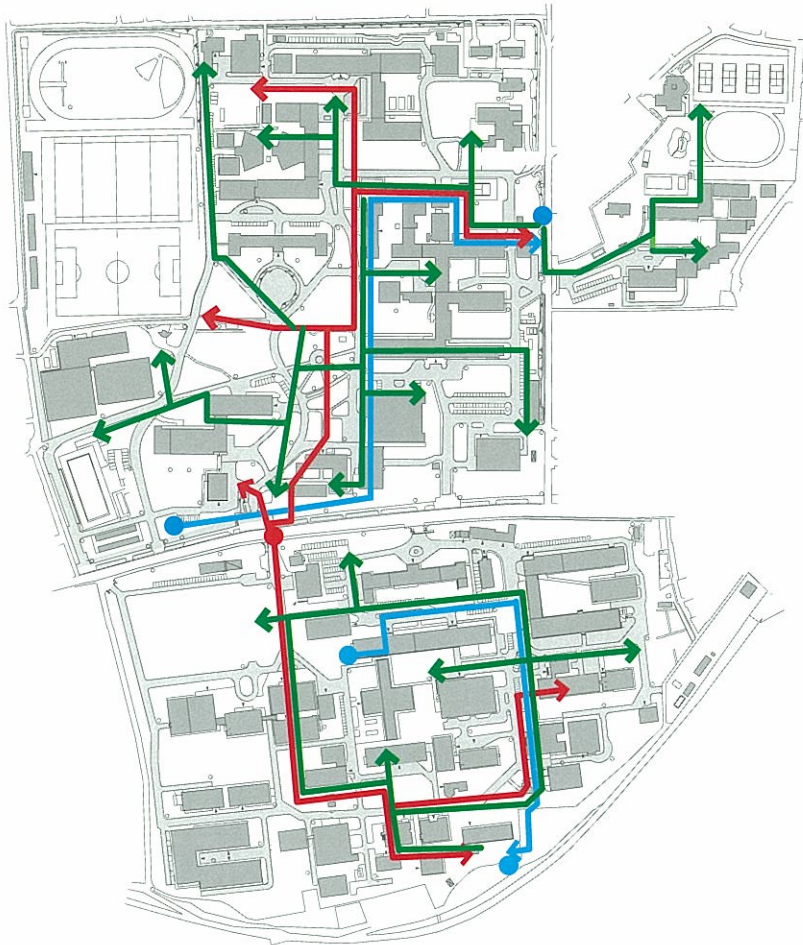
使用先：主に福利施設・実験研究及び空調用の熱源として使用

北地区 205 m³/日、南地区 208 m³/日

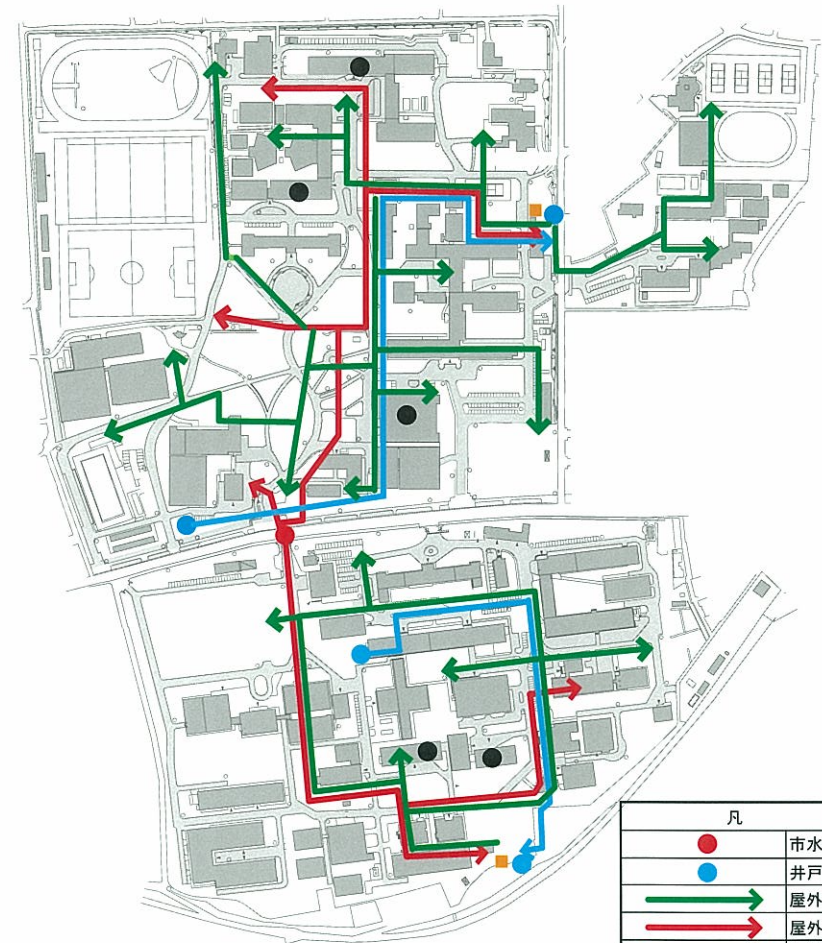
構内引込管の老朽化に伴い配管の更新を行う



■ 現況図



■ 計画図



給水設備

凡	例
●	市水引込
●	井戸
→	屋外給水管
→	屋外給水管 (市水管)
→	屋外給水管 (井水管)
■	清水槽 (地上式)
●	受水槽 (地上式)

給水設備

水 源：北地区は構内井戸2箇所で汲上量 150 m³/日 (使用先は一般給水)

南地区は構内井戸2箇所で汲上量 270 m³/日 (使用先は一般給水)

(南地区は 2箇所内、北側1箇所は休止中)

市 水：使用先は井水の補給用 (殆ど使わない)

給水方式：受水槽と高置水槽の組合せ重力方式 (受水槽は地下式)

水 源：清水槽は地上式に更新し、濾過装置及び圧力タンク等の機器類は将来増を

見込み容量をアップして更新する

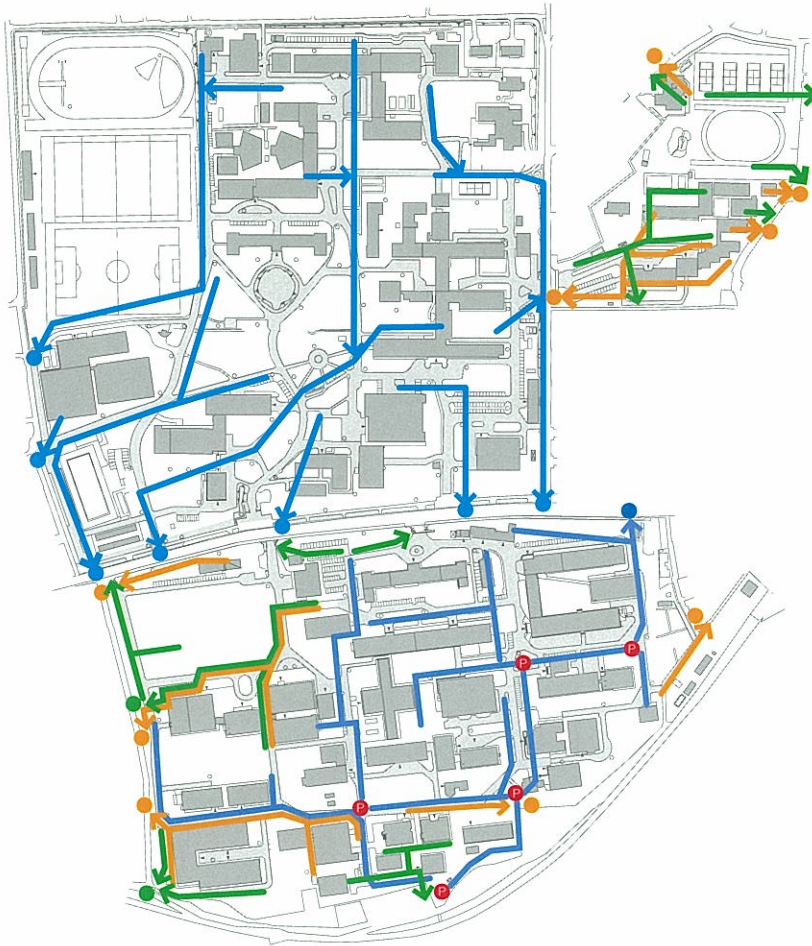
市 水：配管替を計画する

給水方式：方式は現状と同じとするが受水槽を地上式へ計画する

北地区・・・3箇所 南地区・・・2箇所



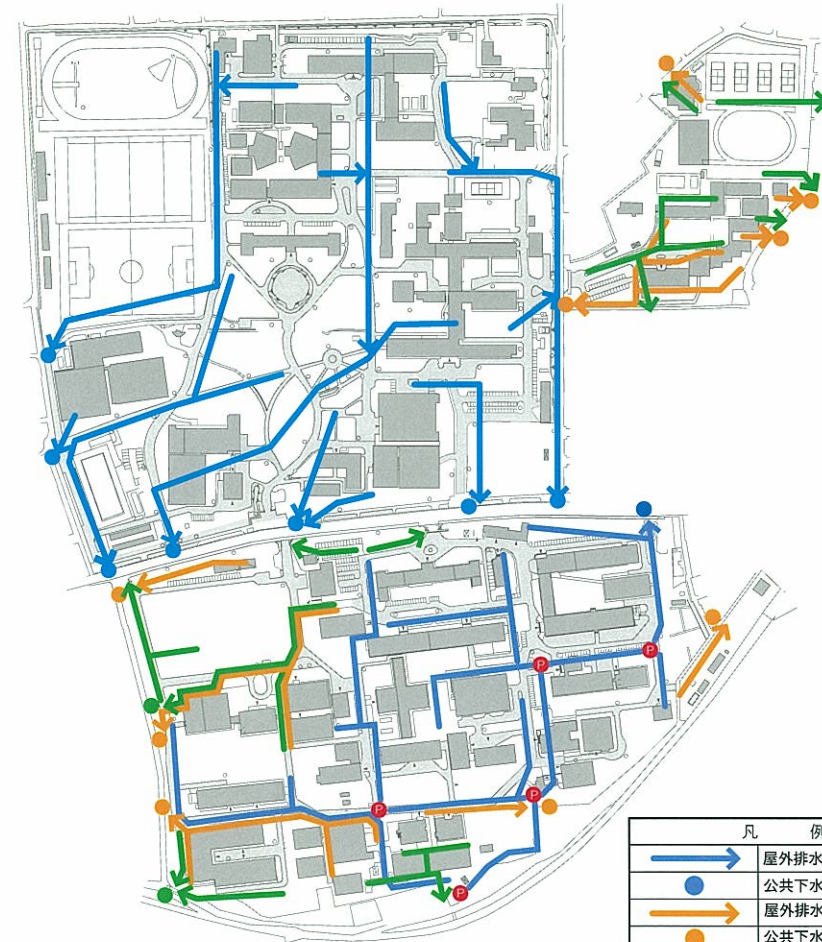
■ 現況図



排水設備

- 一般排水 : } 直接公共下水道へ放流
- 汚水排水 : }
- 雨水排水 : }
- 実験排水 : 棟毎の貯留槽へ貯留し水質を定期的にチェック後公共下水道へ放流

■ 計画図



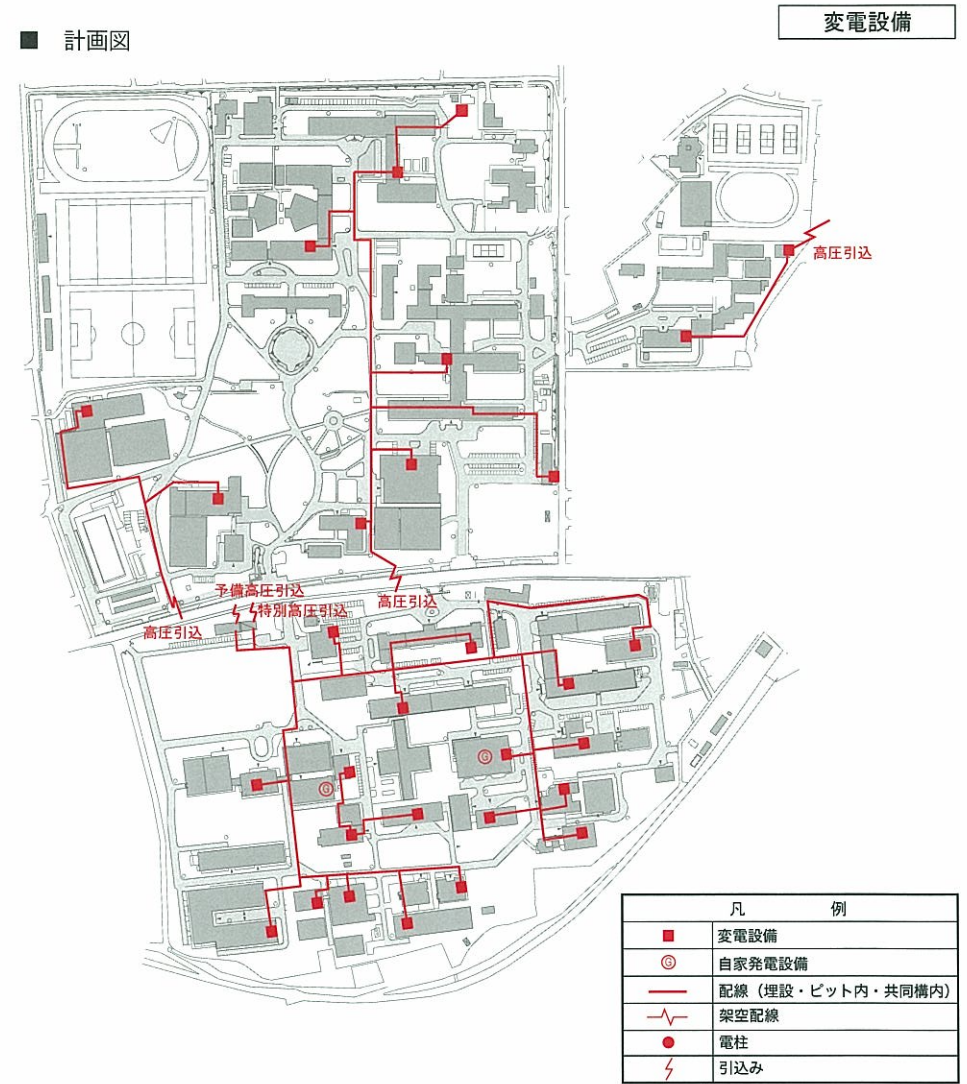
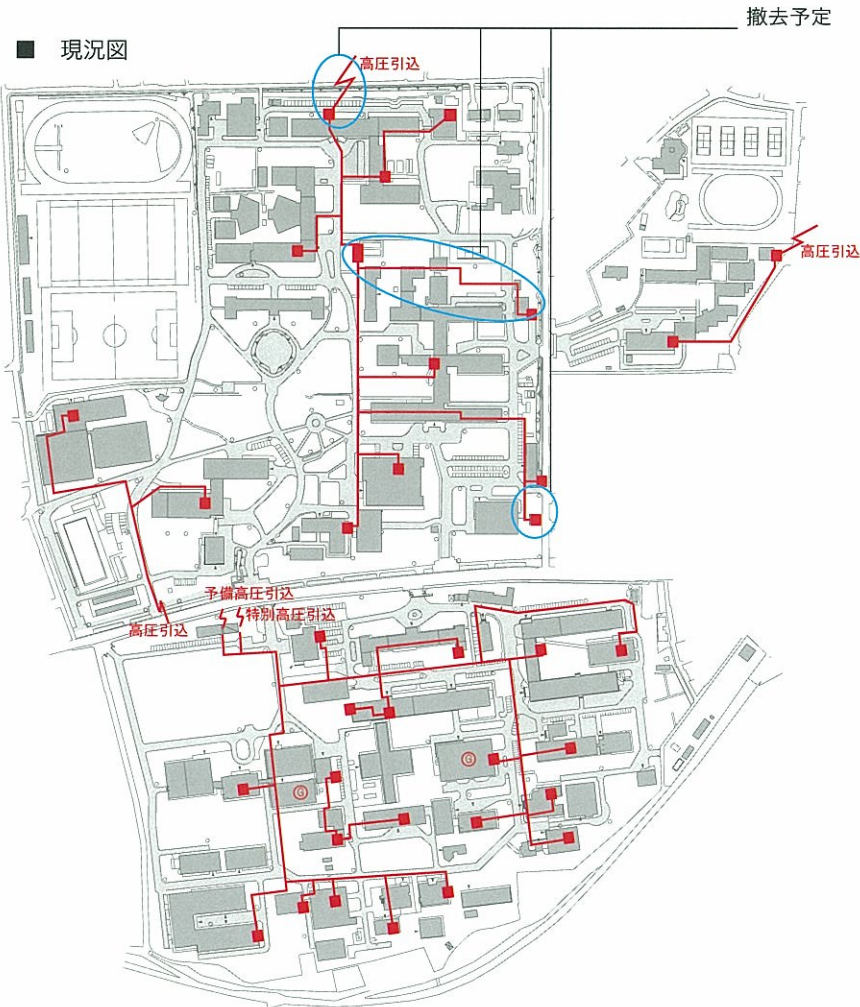
排水設備

凡 例	
	屋外排水管 (汚水・雨水)
	公共下水道 (汚水・雨水)
	屋外排水管 (汚水)
	公共下水道 (汚水)
	屋外排水管 (雨水)
	公共下水道 (雨水)
	ポンプアップ

- 一般排水 : }
- 汚水排水 : } 方式は現状と同じとするが配管等は更新する
- 雨水排水 : }
- 実験排水 : }



設備計画(エネルギー供給図)

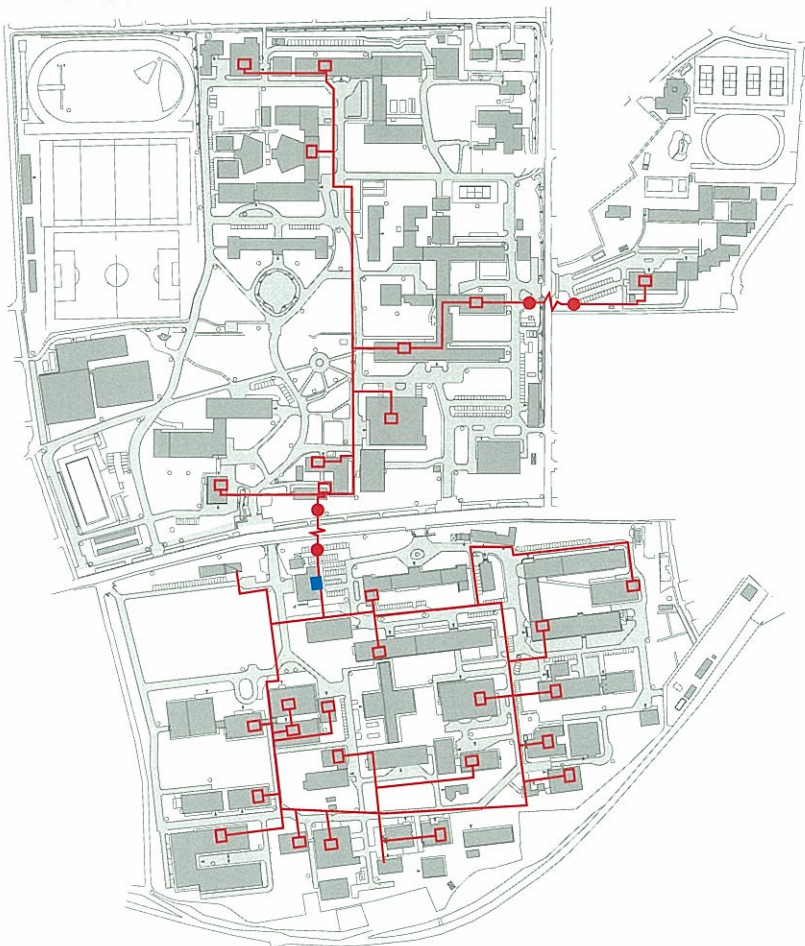


変電設備容量：4,655kVA（北地区）、13,175kVA（南地区）
 変電所箇所数：屋外キュービクル 3箇所（北地区）、無し（南地区）
 屋内変電所 12箇所（北地区）、20箇所（南地区）

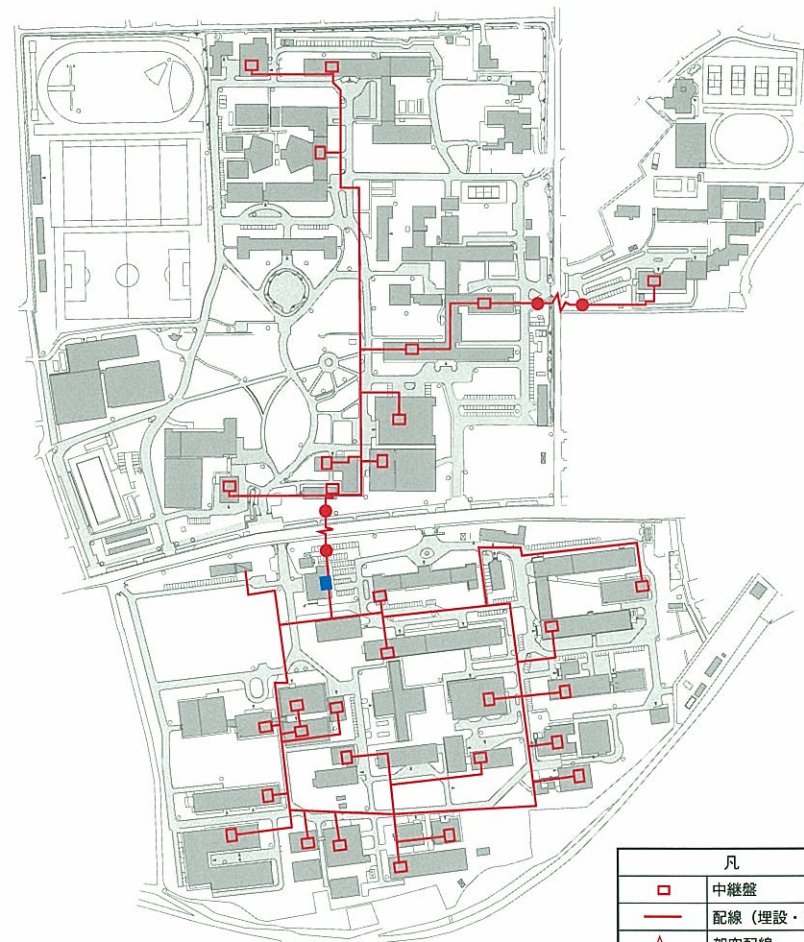
受変電設備：トランスの統廃合及び高効率型の採用を計画する
 屋外キュービクルは撤去し低圧送電を計画する
 北地区の屋外設備の受電設備を撤去し図書館に受電設備を設ける
 これに伴う高圧配線及び引込も変更する



■ 現況図



■ 計画図



電話設備

凡 例	
□	中継盤
—	配線 (埋設・ピット内・共同構内)
—	架空配線
●	電柱
■	電話交換機

電話設備：電話交換設備は平成6年度にデジタル電子交換機（容量1500/2000）にへ更新

電話設備：音声、データ、画像統合インフラに対応できる電話交換設備へ更新



老朽狭隘解消のための改修整備



改修のイメージ

老朽解消のための改修整備



改修のイメージ

北地区食堂と学生会館を集約した福利厚生棟。
学生会館が移動することで赤門から五高記念館
への視界が開ける。

県道に面して立体駐車場（南地区）を確保。
南地区の駐車スペースを集約する。
（壁面に緑化等を施した環境整備を行う）



緑化を行った駐車場のイメージ

県道に面して立体駐車場（北地区）を確保。
北地区の駐車スペースを集約する。（大型バ
ス等も駐車できるスペースを確保する。）

県、国と連携して大学に隣接した河川の
公園化も検討する。



河川公園のイメージ



本マスタープランは、本学における長期的な施設整備の計画であり、国に対して概算要求を行うための基礎的な資料となるものである。

本マスタープランの実現に向けて全学的・組織的取り組みがなされるのはもちろんであるが、教職員・学生個々人がその実現に向けて自覚を持ち積極的な取り組み（施設の効率的な使用、適切な維持管理への協力、教育研究成果の醸成、経費の削減努力等）を行うための契機付けや寄附金等外部資金の獲得等に活用されることも期待している。

なお、本マスタープランは、できるだけ理解しやすいよう、イメージパースや写真等を随所に掲載しているが、イメージパース等はあくまで一つの事例として掲載しているものであり、施設整備実施に当たっては、更に詳細を検討する必要があるのみならず、国の予算状況や研究内容の変化等に対応して変更される可能性がある。

平成18年3月